



代表取締役 渡辺 久さん

生産者の方と一緒に作り上げたりんごジャムです。原材料を多く使用していますので、りんごを食べているような食感が楽しめます。多くの方に味わっていただきたいです。

問 本庁舎農政課 内2225

白河ブランド
認証 第25号

白河プレミアム
ジャム りんご (ふ
じ)



(有)南部

白河が誇る優れた製品を紹介！

市内久田野で育てられたりんご（ふじ）を使用した果肉たっぷりのジャムです。ふじ本来の甘さや風味を生かすため、余計なものは使用せずシンプルに仕上げています。りんごを多く使用しているので、濃厚な味わいとシャキシャキとした歯ごたえが特徴です。生産者の方が一つ一つ丁寧に手間暇かけて育てた想いを無駄にしないよう、サイズが揃いなどの理由で規格外となったりりんごを利用していません。商品開発では、りんごの自然な甘さを引き出すため、生産者の方と試行錯誤を重ねながら、納得のいく商品を作り上げました。こだわりが詰まったりんごジャムをぜひ味わってください。

シリーズで学ぶ 白河歴史人物伝

Vol.3

小峰城と城下町の基礎を築いた初代藩主

丹羽長重

(1571～1637)



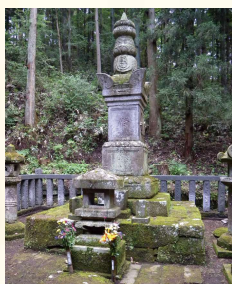
丹羽長重像
(白河市歴史民俗資料館蔵)

《誕生と前半生の挫折》

長重は、1571年に今の岐阜県岐阜市で生まれました。父長秀は織田信長の重臣で、信長死後は豊臣秀吉を支持して越前（福井県）などで約123万石を領しました。1585年、長重は15歳で家を継ぎますが、家臣の不祥事を責められ領地を4万石まで削られました。さらに1600年の「関ヶ原の戦い」では、反徳川の行動を取ったとして改易されました。わずかの家臣が長重に従ったと伝えられています。

となる秀忠の計らいで、1万石の大名として復活しました。そして棚倉（5万石）などを経て1627年、10万7000石の白河藩主となりました。長重はまず、阿武隈川を現在の流れに変え、元の河原を武家屋敷としました。それが今の会津町です。そして1629年1月、長重は小峰城の大改修を開始します。この改修で小峰城は石垣を多用した城郭に生まれ変わりました。東日本では数少ない石垣造りの城は、東北の押さえの役割を果たすものでした。城下町も同じころに整備され、現在まで基本的な形が残っています。

1637年閏3月、長重は67歳で没し、白河の菩提寺大隣寺に葬られました。寺は後に二本松に移りましたが、長重の墓は残され、今も自らが整備した小峰城や城下町を見守っています。



丹羽長重墓
円明寺にある長重の墓。
総高5.16m。

《敗者復活と白河での事績》
転機となったのは1603年。のちに徳川家2代将軍

問 文化財課 ☎ 2310